

関西大学 環境都市工学部 正会員 ○秋山 孝正  
 関西大学 環境都市工学部 正会員 盛岡 通  
 関西大学 環境都市工学部 正会員 井ノ口 弘昭

1. はじめに

少子高齢社会を背景として、医療・健康・福祉に留意した安心・安全・快適な都市空間の形成に関して、「エコメディカルウエルネスタウン」が提案されている。すなわち、環境面の持続可能性（エコ）を考慮した医療拠点（メディカル）として、高齢社会の健康で活力に満ちた総合的な市民の幸福（ウエルネス）を開発の基本方針としている。したがって、エコメディカルウエルネスタウンは、環境未来型の「健康まちづくり」の提案であり、先端的医療拠点・健康福祉関連施設を鉄道駅周辺地域に配置して、医療・健康・福祉サービスの提供と市民の健康増進を基本コンセプトとした「社会的サービスの創造」を意図した自律的都市の創生に対応している。本稿では、吹田市東部拠点（吹田操車場跡地）のエコメディカルを概観するとともに、健康まちづくりの基本理念に基づく次世代スマートシティのイメージを具体化する。

2. エコメディカルウエルネスタウンの基本理念

本稿で検討するエコメディカルウエルネスシティは、ICTを活用して環境共生型都市を実践するスマートな地区としての「エコ」、先端医療および市民医療の拠点としての「メディカル」、市民の健康福祉の拠点としての「ウエルネス」を融合させたまちである。すなわち、都市における医療・健康・福祉を統合的に取り扱う市民のウエルネスを考慮した次世代型スマートシティである。

このような「エコメディカルウエルネスシティ」の基本理念をマンダラの構成論に基づき整理している。マンダラは、密教思想において、宇宙の構成（宗教的完成）を図式表現したものと考えられる。また宇宙の構成要素が小宇宙を構成して、階層的な世界を構成するという思想であると考えられる。健康まちづくりの思想は、究極的には人々の生活を豊かにするための思想であり、マンダラの構成論は、思想統合的に利用することができる。ここで、取り上げるエコメディカルウエルネスシティは、医療・健康・福祉を総合的に取り扱う社会基

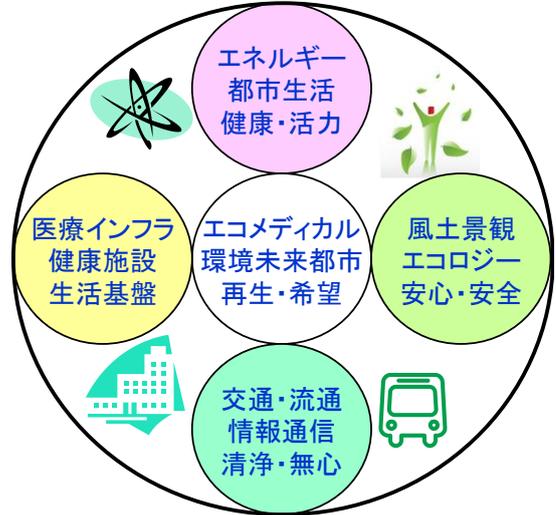


図1 エコメディカルウエルネスタウンの理念整理

盤施設の集合体として構成される。これらを、マンダラに記載される密教的価値観である「五智」に対応づけて検討する。諸仏の配置論として、マンダラの中心に位置づけられる「五仏」と「五智」および具体的形態が有機的に関係づけられている。本稿では、機能的な分類の意味をもつ金剛五仏を基本として考察する。マンダラでは、中心となる五仏に対して、空間的位置（東・西・南・北・中央）や色彩（青・赤・黄・白・緑（黒））あるいは現象（地・水・火・風・空）が規定されている<sup>2)</sup>。

本研究では、エコメディカルウエルネスシティを目指すことから、具体的な五智はつぎのようにまとめることができる。①健康まちづくりの基礎となる医療インフラあるいは健康関係施設などの社会基盤整備が必要である。②交通・流通・通信などの空間移動に関して、市民のモビリティ確保と社会的コミュニケーションの充実を図る。③都市環境の配慮・都市活動（活力）の展開から、健康と都市活力を創生する。④地域風土・自然環境の調和に基づく安心・安全の点から、表層的な健康増進ではなく、心の健康を目指す。⑤総合化の過程として、上記の各項目の成果を有機的に包含する環境未来型の都市構造の形

成を目指す。このようにエコメディカルウェルネスシティに関するソーシャルデザインの思想的意味は、「健康まちづくりの理念」をマンダラの構成論から表現した「心の実相」と考えることができる。

### 3. エコメディカルウェルネスタウンの形成

本研究で着目する「吹田市東部拠点環境まちづくり計画」は図2に示すように、JR 京都線（東海道本線）の岸辺駅を中心とする JR 吹田駅から JR 千里丘駅の鉄道沿線地域が対象である。東西に広がる吹田操車場跡地まちづくりプロジェクトではコア街区（中心街区）と緑のふれあい交流創生ゾーン（西部）および都市型居住ゾーン（東部）で構成される。コア街区中心部の JR 京都線岸辺駅は各駅停車であり、大阪駅より 12 分、京都駅から 24 分の位置に立地している。プロジェクトでは環境と経済の共生と統合を実現して「環境都市」の創出を基本方針としている。コア街区の医療機関 A は、一般病棟：431 床、診療科：20 の総合病院であり、新生児から高齢者まで幅広い患者に対応している。一方で、医療機関 B は、特定分野の医療に関する高度医療の機能を持つ研究センター（高度医療拠点）である。したがって、病院と研究所の一体化した医療機関である。

### 4. エコメディカルウェルネスタウンの基本構成

ここでは理念的な検討結果を踏まえて、次世代スマートシティの基本方針を整理する<sup>3)</sup>。すなわち、①都市インフラとして、開発地区の医療および健康と関連する都市生活・モビリティ確保を目指した空間整備を行う。また情報通信インフラを実装して地域と大規模拠点病院サービスを支援する。②鉄道駅前地区の開発として、公共交通中心の TOD として交通機能を与える。地域コミュニティの回遊型バス、カーシェアリングを組み合わせたクリーン交通の地域運営を推進する必要がある。③開発単位の BEMS（MEMS）等によりエネルギーの最適化・高度化を図り、街区エネルギー融通を通じて災害時のレジリエンスや供給経路の強靭性を高める。また街区・建物の付加価値を向上させるタウンマネジメントを実現して環境共生開発を推進する。④当該地域の歴史文化から将来展開を検討する。緑と水の軸に沿って歩いて楽しめる環境空間アメニティを実現する。これより、環境豊かな健やかな身体とこころを創生する「健康力・適応力・回復力・継承力」の高いスマートシティを形成す



図2 エコメディカルウェルネスタウンの構想

る。⑤上記の開発方針は、エコメディカル・ウェルネスを体感できる先進的な居住空間と都市サービス施設を複合的に立地させる開発とする。さらに自律的健康まちづくりを達成させるためのコミュニティ形成が必要である。

### 5. おわりに

本研究では、健康まちづくりの視点から、環境未来型都市（エコメディカルウェルネスタウン）を形成するための基礎的な分析を行った。環境型の次世代スマートシティの理念的な整理に基づいて、具体的な都市イメージと都市の基本的構成要素についての提案を行った。

今後の検討課題として、①都市での健康と運動の関係、②健康空間整備と都市活動の関係、③各種情報の活用方法などについて、実質的な検討を推進する必要がある。

なお本研究は、関西大学先端科学技術推進機構「健康まちづくりのためのソーシャルデザイン研究グループ」の研究成果の一部であることを付記する。

#### 【参考文献】

- 1) 秋山孝正：秋山孝正：エコメディカルシティの基本理念，第 17 回関西大学先端科学技術シンポジウム講演集，pp. 116-119，2013.
- 2) 松永有慶：密教 岩波書店，1991
- 3) 盛岡通：健康医療サービスと環境共生を融合する拠点形成に関するフューチャ・デザイン，環境システム研究論文発表会講演集，Vol. 41，263-272，2013.